


向陽高校硬式野球部対談


進学先
徳島大学
 理工学部
 木村 大輔さん



進学先
近畿大学
 経営学部
 西川 和希さん



進学先
大阪公立大学
 現代システム科学域
 堀 拓翔さん



進学先
東京大学
 理科 I 類
 堀端 大貴さん



進学先
和歌山大学
 システム工学部
 山田 啓太さん

部活引退まで、勉強時間はどう確保していましたか？

堀 端：部活が終わってから塾に来て、1時間ぐらい自習してっていうのを続けてましたね。

4 人：みんなだな。

西 川：みんなでチャリで来たよな。高2くらいからいつも。

堀 端：高1の間は授業ある日くらいかな。ハイブリッドクラスの授業とサテライン。

西 川：理系組が先にサテラインを受け始めて、文系組はサテラインは取ってないけど、一緒に来て自習してたな。

堀 端：ハイブリッドクラスの映像授業、あれは良かった。学校の授業だけなら忘れるようなことも定着したし。

西 川：部活の後に塾っていうのが習慣みたいになってたよな。部活が終わって部室で着替えて、みんなで駐輪場のところに集まって。

みんなの、勉強に対するモチベーションは？

山 田：僕は、和歌山大学志望っていうのはずっと決めてたけど点数が全く足りてなくて。学校の勉強もちょっとヤバくなってきたから塾でもっていう気持ちで来てたかな。

堀 端：僕は"みんなが来ているから"っていうのが大きい。

西 川：それしか無いよな。これが普通だとずっと

思ってたから。同学年でもアカデミーに来てる友達が多かったし、先輩も多かったから。一人だったら絶対来てない。

4 人：うん。来てない。

西 川：ハイブリッドクラスがあったから、野球部は勉強しやすかったと思います。野球部に合わせて遅い時間になってくれていたし、塾に来る日も週2くらいで。時間の融通がきくのが一番大きかった。定期テストの時はテスト対策もちゃんとしてくれて。高1・高2の間のテスト対策はだいぶありがたかった。最初俺らは堀端に「来いよ」って誘ってもらった。だいぶみんなに声かけてたよな。

堀 端：そうそう。「野球部クラスあるから」って。

山 田：堀端が行ってるならってアカデミーに来始めたもんな。

堀 端：初めは3人だったから。みんなに声かけて。

西 川：それで毎日、家族くらい一緒にいたからめっちゃ仲良くなったよな。部活と勉強との両立は普通だと思ってたし。学校がそうだし、塾に来たらみんな勉強してるし。文武両道っていうより、それが普通の生活って感じで。

木 村：僕は塾での勉強くらいしか時間がとれなくて。これが自分の精一杯だから、それを続けるしかないんやろうなって思った。

夏の大会が終わって、勉強への切り替えはスムーズにできた？

堀 端：最後の大会が終わった後に、泣きながらロッカー室で堀端と握手したな(笑)

インタビュアー

岡 哲司 (AC ターミナル校カウンセリングスタッフ)
 小倉良太 (AC 英語科)

4人： あったなー。

堀： でもその後は大会のことは引きずらずに勉強に切り替えられたかな。

西川： 他の部活は先に終わっていて、最後まで部活やってたのが自分たちだったから、終わって遊ぶっていう気にもならなかった。周りがけっこう勉強してたから、自分は遅れているなって。

堀端： 僕は6月頃、周りが引退していてもそんなに焦りはなかったですね。

西川： 楽しかったしな。野球。

堀： 最後の1ヶ月くらいは野球だけをやりたいて気持ちもあったな。

西川： 夏前にテスト期間と重なったしな。テストで点数とらないといけないし、周りは受験勉強してるし、でも自分たちは野球も追い込みの期間で。あの時期は確かにきつかったな。あと、模試は引きずったりしたよな。

山田： 模試はやバかった。全く伸びなくて。

堀： 模試の判定は気にしなくていいって、今なら思うけどな。

山田： 今ならな。国公立はE判定しか見たことなかったから。

西川： 俺も10月までE判定。そこから冬休みにめっちゃ勉強した。

堀： 俺も最後の最後までE判定。でも気にしないでいようと思ってた。

木村： 「俺、運いいから」とか言ってたもんな(笑)

西川： 受験はメンタルやしな。

志望校・学部を決めた理由について教えてください。

堀端： 僕は「いい大学に行きたいな」というのが漠然とあって。模試とかもけっこう取れていたので、目指すなら一番かなって思っていました。

山田： 僕は高1の初めから和歌山大学のシステム工学部で推薦入試があるっていうのを知っていて、そこを目指そうかなと。そこに自分がやりたいこともあったので「ここしかない」みたいな感じで。

木村： 僕は両親が化学系で、自分も化学が好きだったから。ずっとやっていくなら化学が楽しいかなと思って化学専攻にしました。高2で化学の授業をやり始めて楽しかったし。実験とか特に。

西山・山田： へー。実験が面白い…？

木村： そう。でも高校の授業で実験はそんなになかったから、大学行ったらもっとできるんじゃないかと思って。

堀： 僕は、そんなに勉強が嫌いじゃなかったから、志望校がなかなか決まらなくてもモチベーションは下がらずに続けられたかな。近くて、できるだけいい大学に行こうみたいな感覚で。

西川： 僕は、経営学を学びたくて。近大には学生ベン

チャーの施設があるので。それを高1の冬くらいに知って。もともと、お金持ちになりたくて(笑)。それで経営者になるんだったら経営学部かなと。最終的に学力的にもいい感じだったので。数学ができなくて早いうちに英語国語社会に絞ったので、それも良かったかな。決断は早い方がいいと思う。

大学でどんなことをしたいと考えていますか？

山田： 自分は大学院に進んで、同じ大学で研究を続けていけたらなって思ってます。情報デザインメジャーとクロスリアリティデザインメジャー。

4人： 何それ？

山田： ARやVRとか。医療の現場とかでも応用出来たらいいなと。

木村： 僕も大学院に。親にもそういう風に相談して。4年後卒業したら、別の大学の院に行って勉強したいなって思ってる。

堀： 僕、何にも考えてない(笑)。近くて文理融合型みたいな感じが自分に合ってるかなって選んだから。そこで何か見つけられたら。

西川： 僕は大学生のうちに起業はしたいなって思ってます。勉強は好きじゃないけど、やりたいことだし、ちゃんと勉強して。

後輩へのメッセージをお願いします。

堀端： 夢は大きく、頑張ってください。

山田： 学校の授業をちゃんと受けて、しっかり内容を理解するように。復習もしっかりやってほしいかな。自分はそれができてなかったから、高3になった時に時間が足りなかった。学校の授業をちゃんと受けてほしいなと思います。

木村： 共テ終わるまで、自分の目標に向かってしっかり勉強して欲しい。学校の授業も疎かにせず、学校の授業時間の中で覚えるみたいなことをしないと、野球部にはきついと思うから。普通の学校生活でそれを意識しながら勉強してほしいなと思います。

堀： サボらずコツコツと頑張ってください。

西川： 自分たちの代は、野球と勉強に対するスタイルがみんな似てて。一人ひとりの意識が高かった。誇れるくらい自主練とかも頑張って、勉強も頑張った。だから自分も楽しく野球できた。最後の夏も中途半端なところで負けたけど、強い相手に勝って、最後にあそこまで追い上げて。いろんな人に試合見てもらえて、やり切れたなと思うので。勉強も部活も仲間と頑張ってください。

5人： なんだかんだで真面目にやってたもんな、俺ら(笑)



木村さん



西川さん



堀さん



堀端さん



山田さん

編集後記 ～インタビューを終えて～

「野球と勉強の両立は普通」「みんなで練習の後に塾で勉強することは普通」と言い切れるところに、彼らの高校3年間の凝縮されていると思いました。大好きな野球は全力で取り組み、しかし勉強や受験からは決して逃げない、諦めない、部活を言い訳にしない。そんな野球部のメンバーが、私は本当に大好きでした。野球でも勉強でも、お互いに励まし合い、刺激し合い、切磋琢磨できる、素晴らしいチームだったと思います。そして、野球と勉強を「普通に」両立させた経験は、彼らの大きな自信となり、財産となると信じています。大きく社会で羽ばたくことを、楽しみにしています。

※高校3年生の夏の大会の最後の試合、負けはしましたが、本当に素晴らしい試合でした。今まで観戦した過去の向陽野球部の試合の中でも、一番感動したと言っても過言ではありません。スタンドでちょっと泣いてしまいました。